

【講義 7】 表紙の文様について

齋藤 真麻理

一、はじめに

この講義では、古典籍の表紙にほどこされた文様について、名称や命名の由来など基礎的な知識を身につけるとともに、それが古典籍研究にとってどのような意義を有するのか、考えてみたい。

表紙とは、「書物の保護や装飾のため、書物の外側に添えられる」ものである（『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、1999年「表紙」の項）。そのような機能性に加え、表紙は書物の時代やジャンル、作品内容とも関連する場合が少なくない。

一例を挙げるならば、嘉永2年（1849）刊『平家物語 函会』の表紙には、「笹竜胆に浮線蝶散らし」が用いられている

(<https://www.doi.org/10.20730/200007493>)。

周知のとおり、源氏の紋は「笹竜胆」、平氏の紋は「揚羽蝶」である。つまり、『平家物語函会』の表紙は、源平合戦を連想させる文様で飾られているのであり、表紙が作品内容を物語る趣向となっているのである。

このように、表紙の文様や色、素材まで含めて観察し、理解することで、その書物の内容や文化史的意義をより深く理解することができる。

二、表紙のさまざま

表紙には、大別して「裂表紙」と「紙表紙」がある。

「裂表紙」には麻、錦、緞子布などが用いられており、実用より装飾性が重視されているといえよう。17世紀に制作された豪華絵巻などは金欄緞子表紙が多いが、版本については、献上目的等の上製本以外、裂表紙を使用した例はきわめて少ない。

一方、最も多く見られるのが紙表紙である。以下にその代表的な例をあげよう。

- ・素紙表紙。料紙と同素材の表紙で、共紙表紙ともいう。

- ・香表紙。丁字^{ちやうじ}で染色した表紙で、薄赤に黄色味を帯びる。江戸時代以前から多用されている。
- ・渋引き表紙。柿渋^{しぶび}を引いた栗色の表紙で、栗皮^{くりかわ}表紙とも呼ばれる。何度も渋を重ね、光沢を帯びたものもある。比較的虫害に強いとされ、江戸時代初期の古活字版、抄物、仏書、漢籍などに多い。
- ・紺紙金泥表紙。藍^{こんしきんでい}で紺に染めた紙に、金銀の泥^{あい}で下絵を描いた表紙。「紺紙金泥」とは紺色の紙に金泥で書いたものをさす用語で、経文や仏画に作例が多い。典型的な例として、平安時代の装飾経を挙げることができる。これは紺や紫の染紙に金銀泥を用いて経文を書写したもので、見返しに経典の内容を示す経絵を描く例も多い。文学においては、物語や歌書に紺色金泥表紙が散見する。金銀の切り箔^{きりはく}や野毛^{のげ}、砂子^{すなご}を紺紙にまき、草花や遠山、霞など、その書物とは無関係な風物を描く例が比較的多いが、作品内容を踏まえた絵画表現も見られる。
- ・丹表紙^{たん}。鮮やかな赤橙色の表紙であるが、水銀を用いているために酸化が進み、鉄色や銀色に変色したものもある。表紙は経年により変色する場合は殆どであるから、もとの色を留めている部分を確認する必要がある。
- ・刷付け表紙。表紙全体に錦絵を印刷した表紙。合巻などに見られる。

三、文様を表す技法

表紙に文様を表現する技法としては、上述のとおり、手描きや印刷によったものがあるが、そのほかにもよく用いられた代表的な技法が二種ある。

第一は、艶出し文様^{つや}である。凹凸の型を表紙の裏面に当て、表面から磨くなどして光沢を出すという技法であり、江戸時代初・中期に多く用いられたとされる。

艶出し文様は、表紙のオモテ上は凹凸が目立たない。従って、経年劣化した表紙の場合、オモテを一見するだけでは文様がないように見えてしまう。しかし、光線の加減で文様の有無や意匠を判別できる場合があるので、無地表紙と即断せず、注意して観察したい。見返しが剥がれているなど、表紙ウラが露出している部分があれば文様が確認しやすい。是非、表紙ウラにも注目して頂きたい。

第二は、空押し文様^{から}である。型を用い、表紙の表面に押しつけて凹凸を浮き出さ

せる技法である。慶長年間（1596～1615）以後に多く見られ、朝鮮本の影響の可能性を指摘する説もある。

明治本にも空押し文様は多く見られるが、明治本の場合はしばしば光沢を伴っている。つまり、艶出しの型押し表紙になっているのであるが、これは西洋の革表紙を意識した意匠であったのかも知れない。

「古典籍」と「近代文献」。両者は一見、距離があるように見える。しかし、実は繋がっている。表紙文様は、それを改めて考えさせてくれる興味深い素材である。

四、表紙の呼称

「三、文様を表す技法」で示した文様は、単一の文様から成る場合と、複数の文様の組み合わせから成る場合があり、文様の配置の仕方にも一定の型がある。それらの呼称について簡単に示しておく。

第一、「地」「^{つな}繋ぎ」。この呼称は、単一の文様が連続してほどこされている場合に用いられる。たとえば、四角い渦巻き状の文様である「^{らいもん}雷文」は、よく用いられる文様のひとつであるが、これが表紙の面全体に連続性をもって配されている場合、「雷文地」「雷文繋ぎ」などと呼ばれる。

第二、「◇◇地に◆◆文様」「◇◇繋ぎ地に◆◆文様」。これは、地文様◇◇に別の文様◆◆を取り合わせている場合に用いられる。たとえば、「雷文」を連ねた地文様の上に「^{からくさ}唐草文様」が配されていれば、「雷文繋ぎ地に唐草文様」と称する。このように文様を組み合わせた表紙は多く見られる。

第三、文様が一定の間隔をおいて配されている場合。これは「地」「繋ぎ」ではなく、「散らし」という呼称を用いる。たとえば、「^{ふたばあおい}二葉葵」の文様が散らしてあれば、「二葉葵散らし」などと呼ぶ。

このほかによく出てくる文様には、「何々の丸」と称する文様がある。これは円の中、または、円形に動植物などが描かれている文様であり、たとえば、「龍の丸」、「鶴の丸」などと呼ぶ。また、^{はけ}刷毛ではいたような線状の文様は「刷毛目文様」と総称され、線が横であれば「横刷毛目」、縦であれば「縦刷毛目」といったバリエーションで呼ばれる。

五、表紙の世界

古典籍の表紙には、四季の景物や動植物、器物、文字、幾何学文様など、さまざまな意匠が凝らされている。吉祥性や季節感を兼ね備え、古くから調度品等々に用いられた文様がある一方、それと気づかないかたちで、現代の私たちの日常生活の中に溶け込んでいる文様もある。

ひとつひとつの文様の出自を尋ねてみると、その豊かな文化的背景が見えてくる。それを知ることによって、古典籍に新たな奥深さを感じることができるのではないだろうか。

また、表紙にはしばしば古典籍の反故が補強材として用いられている。時にそこからは、古活字版や近世の書肆における書物制作の記録など、当時の書物文化をめぐる貴重資料が発見されることがある。こうしたいわば表紙のウラの顔は、端正に整えられたデジタル画像ではまず視認できないが、今後、非破壊で表紙裏反故のデータを集中的に集積できれば、多様な知見を得られる可能性があるだろう。

このように、表紙のオモテとウラの顔は、日本の豊かな書物文化を今に伝えている。それらを見出すためにはデジタル画像のみに頼らず、原本を「見る」ことが何よりも重要である。

参考文献

本資料の用語は『日本古典籍書誌学大辞典』に拠った。色も重要な書誌事項であるため、参考文献に加えた。WEB上の色見本は環境により異なる色調に見え、古典籍の表紙の色と、光沢紙に再現された色とでは明度や色調に差異が感じられる。従って使いやすい色見本を決め、均質な書誌データを採ることを勧めたい。

- ・『日本古典籍書誌学大辞典』岩波書店、1999年
- ・国文研文献資料部『調査研究報告』25号別冊『表紙文様集成』（中野真麻理・小川剛生編、2004年）

- ・沼田頼輔『日本紋章学』人物往来社、1968年
- ・並木誠士『すぐわかる日本の伝統文様—名品で楽しむ文様の文化』東京美術、2006年
- ・海野弘『日本の装飾と文様』パイインターナショナル、2018年
- ・『有職文様図鑑』コロナブックス、2020年
- ・石崎忠司ほか『和の文様辞典 きもの模様の歴史』講談社学術文庫、2021年
- ・池修『佛教の文様』2017年
- ・長沢盛輝『日本の伝統色 その色名と色調』青幻舎、2006年
- ・『日本の伝統色』大日本インキ化学

2022年度

第20回 日本古典籍講習会

講義 7

表紙の文様について

国文学研究資料館

齋藤真麻理

2022年7月13日

- I 表紙とは
- II 表紙文様の基礎知識
一 艶出しと空（から）押し一
- III 文様のさまざま
- IV 表紙のウラの顔
- V 文様レッスン

参考：「表紙文様集成」

<https://www.nijl.ac.jp/pages/images/hyousimonyou.pdf>

※資料中の画像はとくに断らない限り国文研本



I 表紙とは

書物の保護や装飾のため、書物の外側に

添えられるもの。

・ 卷子装かんすの一枚物

冊子装の二枚物

・ 布表紙きれ（裂表紙）

紙表紙



時代、ジャンル、内容などにも関わる表紙の世界／デザインの美しさ／書物の「顔」

※以下、カラー画像が公開されている場合などはQRコードも添えました。どうぞご参照ください。

嘉永二年刊『平家物語図会』



表紙文様Ⅱささりんどろ笹竜胆ふせんちように浮線蝶散らし

源氏の紋は「笹竜胆」、平氏の紋は「蝶」と

いう理解が定着、源平合戦を連想させる

表紙文様へ。

現代にも受け継がれる文様の世界



鎌倉市の市章



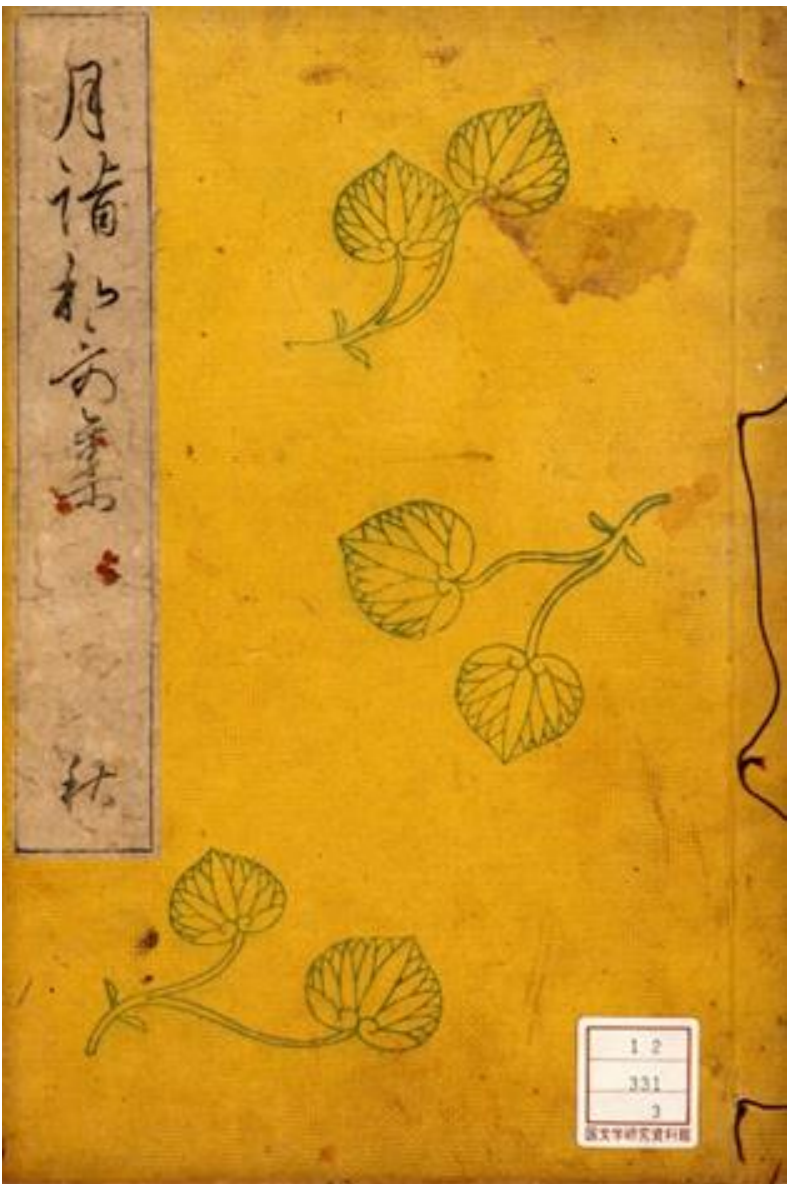
浮線蝶

<https://www.doi.org/10.20730/200007493>

文化五年刊『月詣和歌集』

平安後期の私撰集。賀茂別雷社わけいかづちの神職、賀茂重保が編纂。書名は、当社に月参する人々の和歌を集めた歌集であるところから命名。

二葉葵の文様：賀茂神社の神紋



時代、ジャンル、内容などにも関わる表紙の世界／デザインの美しさ／書物の「顔」

元禄3年（1690）刊『人倫訓蒙図彙』より「表紙屋」
 京都大学蔵（京都大学貴重資料デジタルアーカイブ）



◆布表紙（裂表紙）

麻、錦、どんす緞子など布を用いる。实用より裝飾性。豪華な絵巻などはきんらんどんす金襴緞子が多い。版本については、献上目的等の上製本以外、作例はきわめて少ない。

◆紙表紙

そし素紙表紙ともがみ|| 料紙と同素材の表紙。共紙表紙。

こう香表紙ちようじ|| 丁字で染色。薄赤に黄色味を帯びる。江戸時代以前にも多用。

渋引き表紙 || 柿渋を引いた栗色。栗皮表紙。何度も渋を重ね、光沢を帯びたものもある。比較的虫害に強いとされ、江戸時代初期の古活字版、抄物、仏書、漢籍などに多い。

紺紙金泥表紙 || 藍で染めた紙に金銀の泥ででい下絵を描いたもの。物語や歌書に多い。

たん丹表紙 || 鮮やかな赤橙色。水銀を用いるため酸化が進み、鉄色や銀色に変色するものもある。

すりつ刷付け表紙 || 合巻などの表紙全体に錦絵を印刷。

参考 『日本古典籍書誌学辞典』 岩波書店、1999年

『日本の伝統色 その色名と色調』 青幻舎、2006年

「和書のさまざま―書誌学入門―」 国文研HP

布表紙

①『大黒舞』

江戸時代前期写 絵巻2軸 貴重書
書誌ID: 200006198



<https://www.doi.org/10.20730/200006198>

縹色地に唐草文様金欄表紙

(はなだいろ)



紙表紙

②『太平記』

寛永元年刊 古活字版 41冊 貴重書
書誌ID: 200003071



<https://www.doi.org/10.20730/200003071>

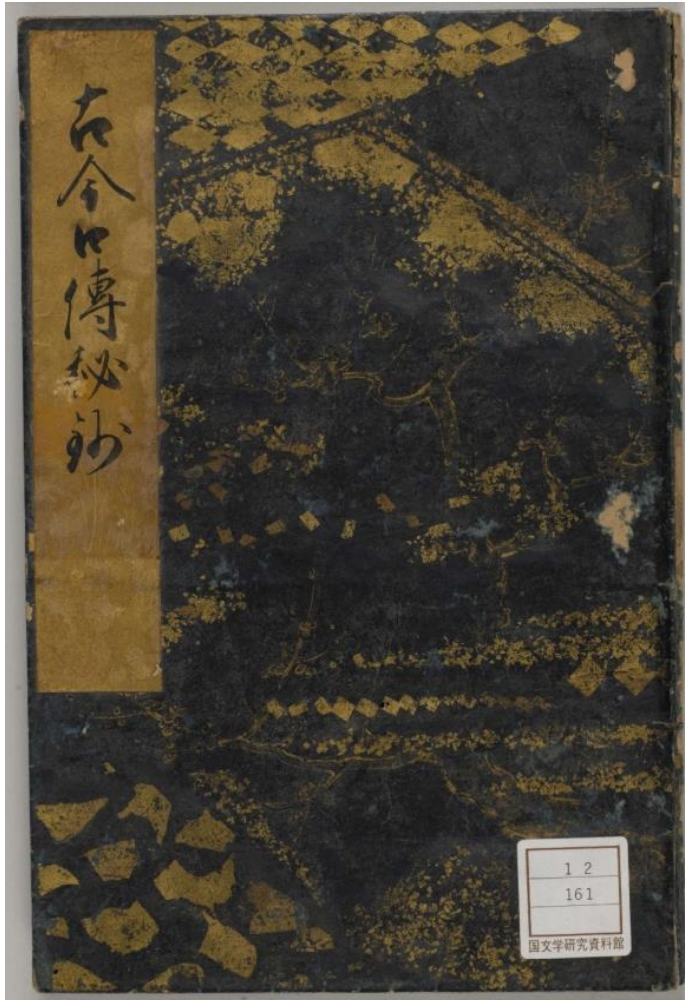
渋引き表紙(栗皮表紙)



- ③『古今口伝秘抄』
室町時代初期写 1冊
書誌ID: 200000091



<https://www.doi.org/10.20730/200000091>
紺紙金泥表紙



- ④『ささやき竹』
江戸時代前期写 3冊
書誌ID: 200003084



<https://www.doi.org/10.20730/200003084>
紺紙金泥表紙



⑤『伊曾保物語』
万治2年刊 1冊
書誌ID: 200021086



<https://www.doi.org/10.20730/200021086>

丹表紙

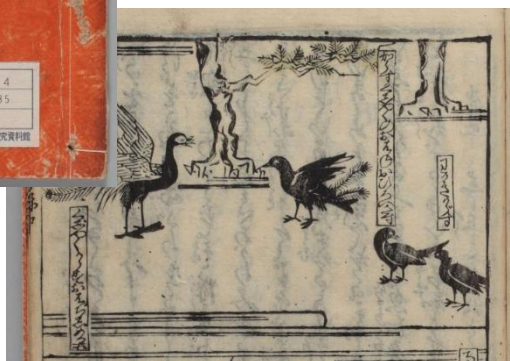
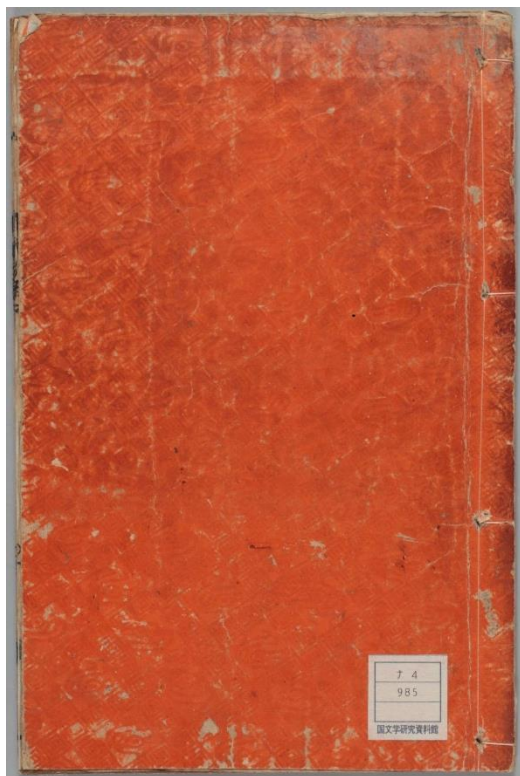
じらいやごうけつものがたり
⑥『児雷也豪傑譚』
合巻 48冊
書誌ID: 200004250



<https://www.doi.org/10.20730/200004250>

(No.972コマ・No.985コマ)

刷付け表紙



第廿七 からすとくじやくとの事



Ⅱ 表紙文様の基礎知識

― 艶出しと空押し ―

艶出し文様

凹凸の型を紙の裏面に当て、表面から磨くなどして、光沢を出した文様。江戸時代初期・中期に多いとされる。光線の加減で判別できる場合もある。見返しが剥がれていたら、露出した裏面に注目。

空^{から}押し文様

型を用い、表面に押しつけて凹凸を浮き出させた文様。慶長年間（一五九六～一六一五）以後に多く、朝鮮本の影響かとする説もある。明治本にも多い。単一の文様／地模様＋別の文様／文様を散らす

※呼称は一定していないが、ここでは『日本古典籍書誌学辞典』による。

※国文研文献資料部『調査研究報告』1・2・4・5・

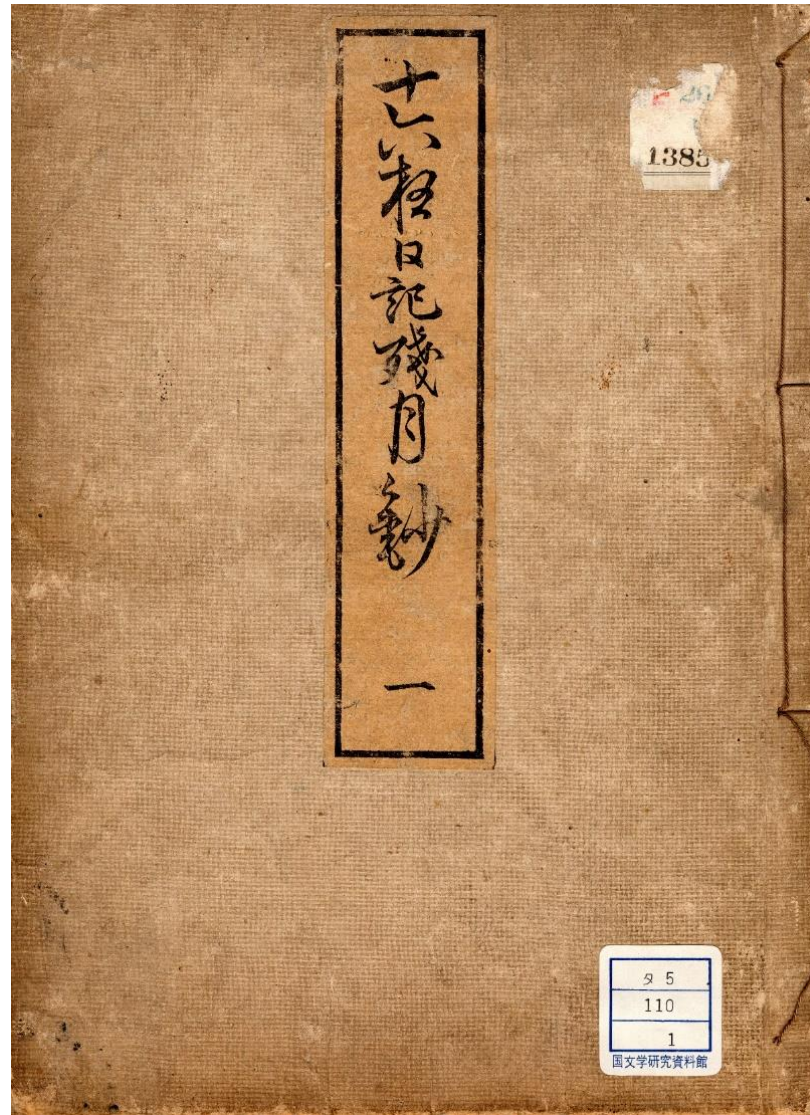
6・12・13・14号および同25号の別冊『表紙

文様集成』（中野真麻理・小川剛生編、2004）参照。

Ⅲ 文様のさまざま

地文様・幾何学文様

① 布目



文政7年刊『十六夜日記残月抄』タ5-110-1-3
<https://doi.org/10.20730/200001913>

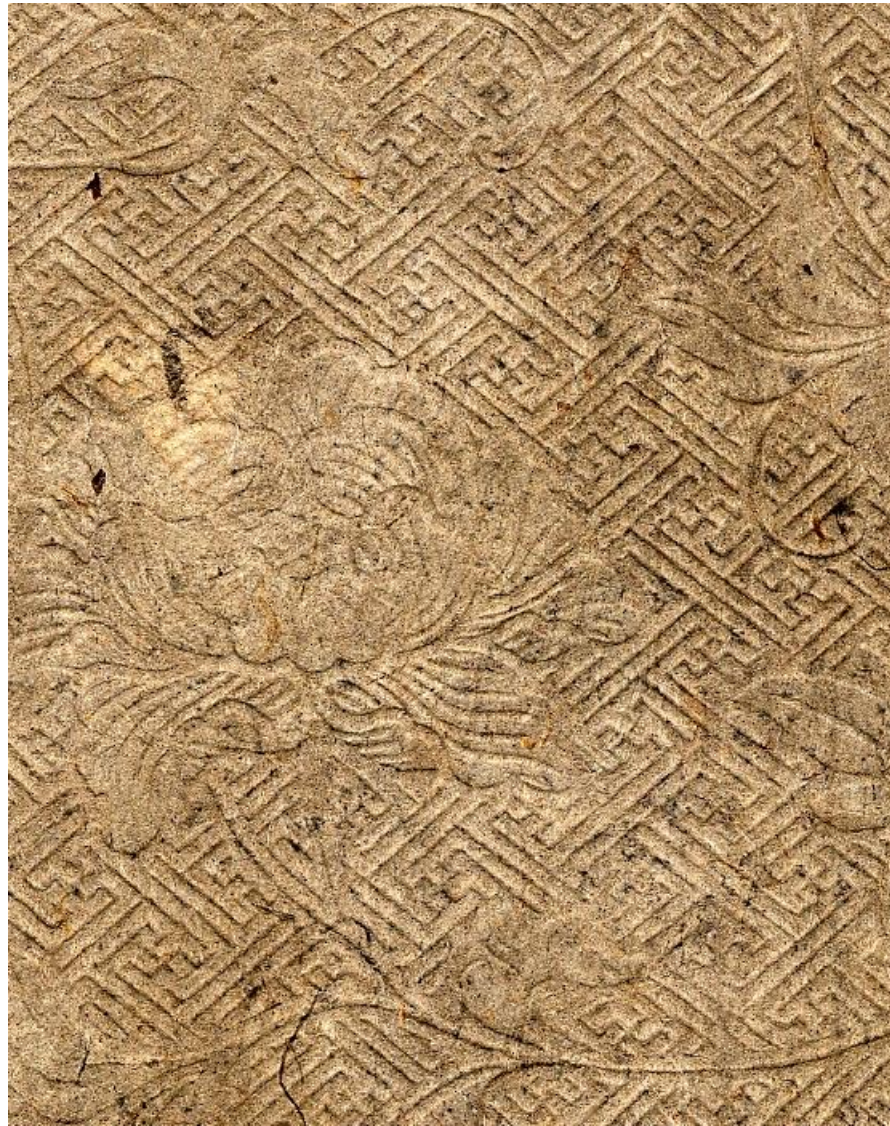


(部分拡大)

②卍繋ぎ（まんじつなぎ）

卍の字をくずして連ねたような形。紗綾形（さやがた）とも呼ばれる。卍は仏菩薩の胸や手足等に現れた吉祥相。

例…卍繋ぎ地に牡丹（ぼたん）唐草



とらや干菓子「推古」
法隆寺の卍くずしを
かたどる



慶安5年刊『奥義抄』（表紙ウラ）サ2-14

おうぎしょう

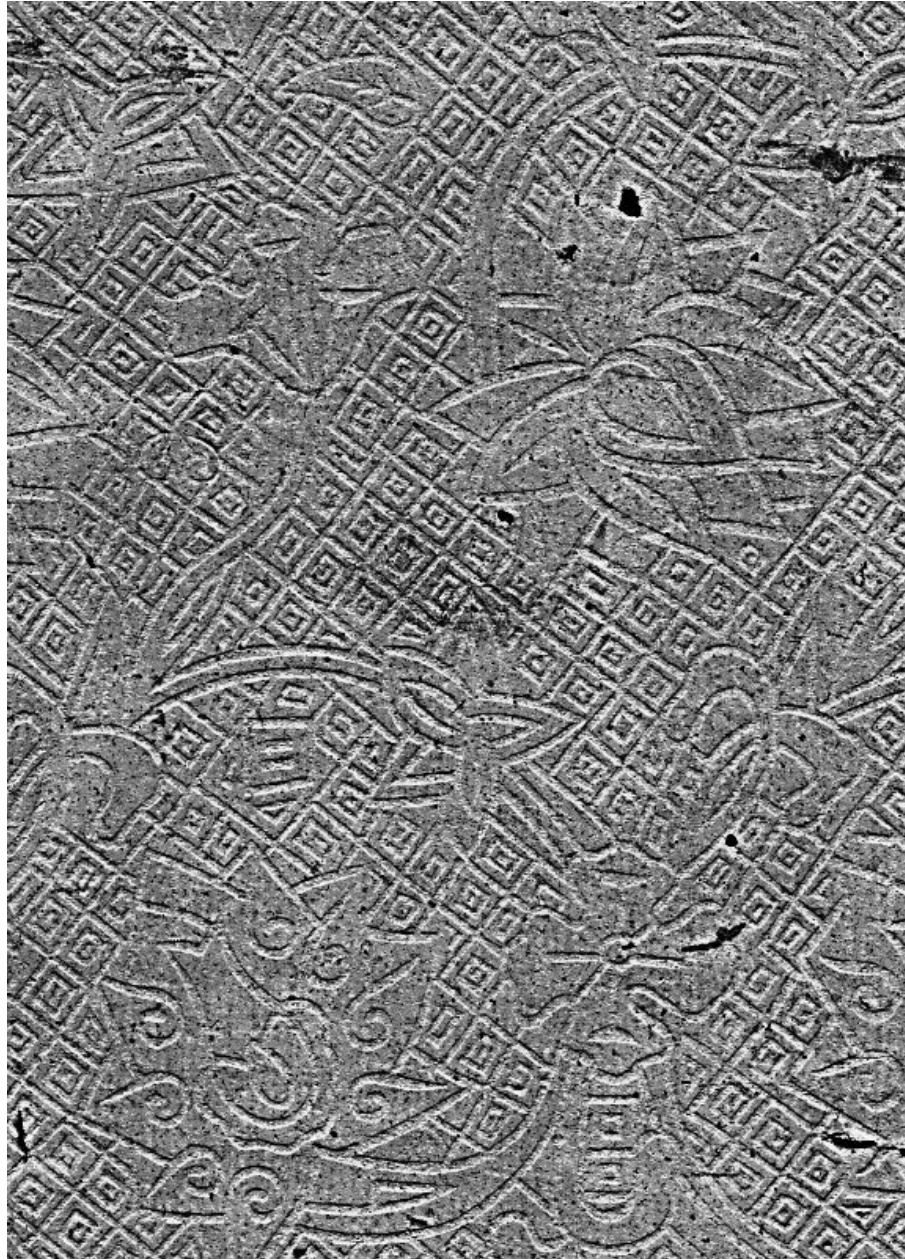
<https://doi.org/10.20730/200000991>

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200000991/viewer/2>

③ 雷文（らいもん）

稻妻形に屈折した線から成る。方形のうずまき状。

例…雷文繋ぎ地に蓮華唐草



明治期刊『青丘詩鈔』（表紙ウラ）ラ4-1

せいきゅうししょう

例
.. 雷文襷
たすき
地に雨竜



寛永無刊記『徒然草』(表紙ウラ) タ5-32
<https://doi.org/10.20730/200002162>

東洋文庫『かげきよ』三-A-d-10

<http://124.33.215.236/gazou/201608/showimg201608.php?lstdir=3-A-d-10&booktitle=%E6%99%AF%E6%B8%85&iPage=1&pgtitle=>

④麻の葉

例・麻の葉地に小菊と若松の丸散らし（行成表紙こうせいびょうし）

□□□地＋◆◆の丸十散らし



・行成表紙 藤原行成好みの紙（行成紙）を用いた表紙。

江戸時代中期以降に多い。薄い色の紙に、麻の葉繋ぎや亀甲繋ぎなどの地模様と、菊や松葉などの丸文様をあしらったものを指す。

行成（972～1027）は平安時代の三蹟さんせきの一人とされる能書家。

江戸後期刊『頭書鴨長明方丈記』（方丈記之抄）

89-344（高乗家） <https://doi.org/10.20730/200015862>

例
.. 松皮菱



江戸後期刊『枕詞燭明抄』
まくらことばしよくみょうしょう

ナ2-289(表紙ウラ)

<https://doi.org/10.20730/200006564>

⑥ 菱 (ひし)

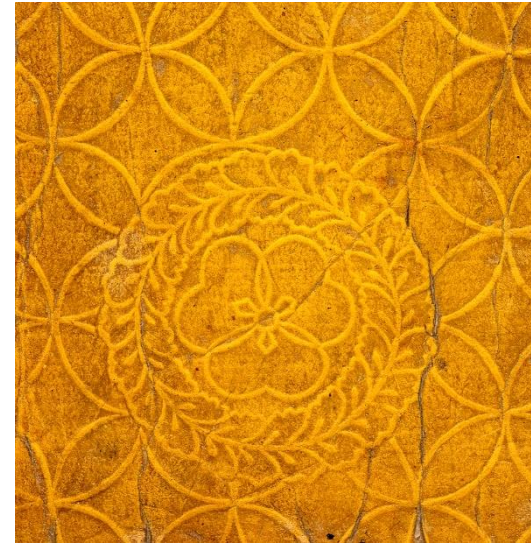
例
.. 布目 ぬのめ 地に花菱



嘉永元年序・刊『偏類六書通』
へんるいりくしよつう

マ3-52

<https://doi.org/10.20730/200004493>

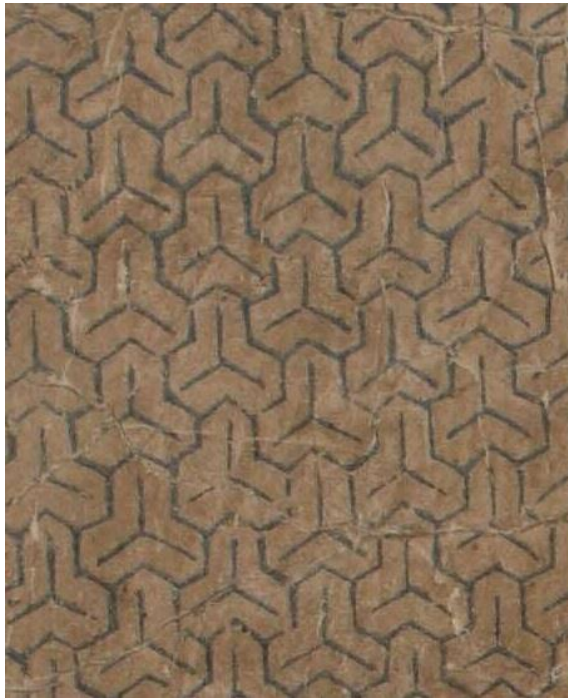


文久3年刊『江戸大節用海内蔵』
えどだいせつようかいだいぐら

マ3-39

<https://doi.org/10.20730/200004490>

⑤ 七宝繋ぎ (しっぽうつなぎ)
例
.. 七宝繋ぎ地に藤輪に片喰 かたばみ 文



例..毘沙門亀甲 (びしゃもんきっこう)

『天林山笠覆寺観音縁起』

てんりんさんりゅうふくじかんのんえんぎ
MX-355-44

<https://doi.org/10.20730/200018616>



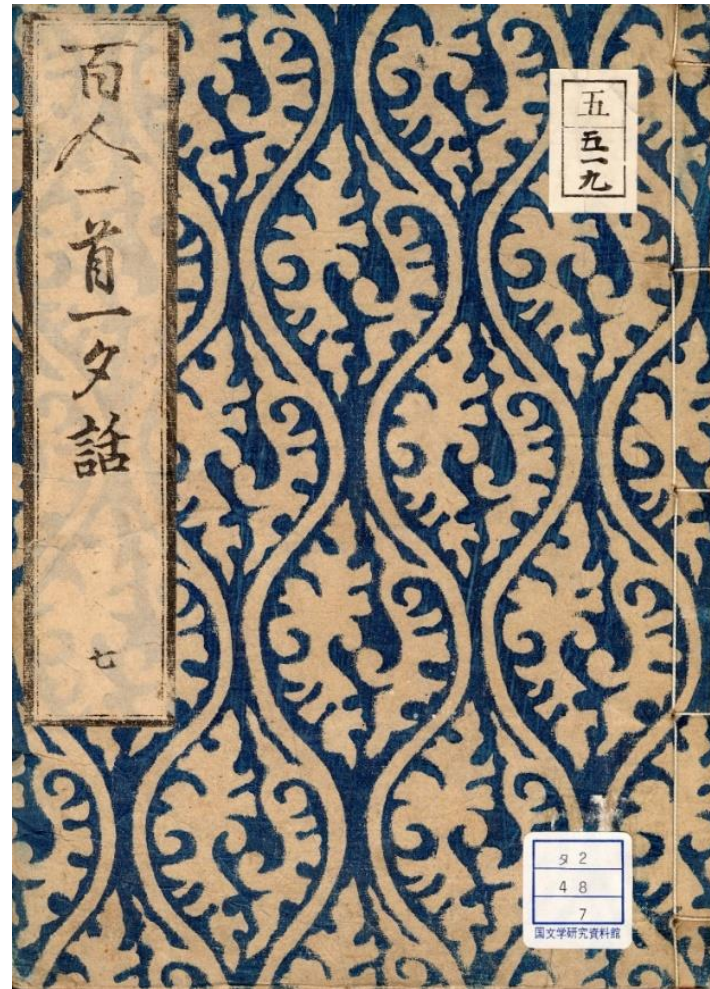
⑦亀甲 (きっこう)

例..花文二重亀甲繋ぎに竜

宝永7年刊『二人びくに』
ナ4-409



慶應義塾大学蔵『しゆてんとうし』上巻
<http://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/naraehon/132x-70-3-1>



天保4年刊『百人一首一夕話』タ2-48

<https://www.doi.org/10.20730/200000999>

⑧立涌（たてわく・たちわく）
雲がわき起こるさまをかたどった吉祥文。
例・雲立涌



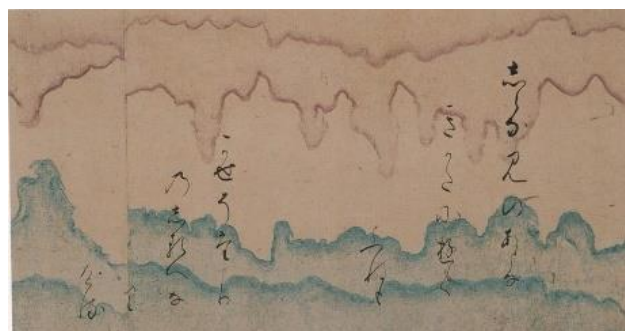
慶應義塾大学『ぶんしやう』巻3

<https://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/naraehon/110x-445-3-3>

⑩ 打曇り (うちぐもり)

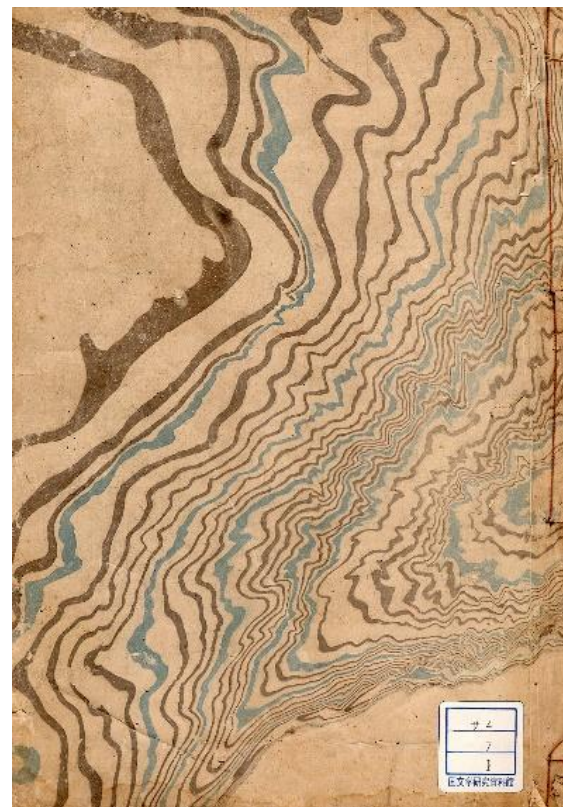


文明9年写『古今集注』サ2-20



国立歴史民俗博物館蔵
『古今集恋歌散し書』
『うたのちから-和歌の時代史-』2005年

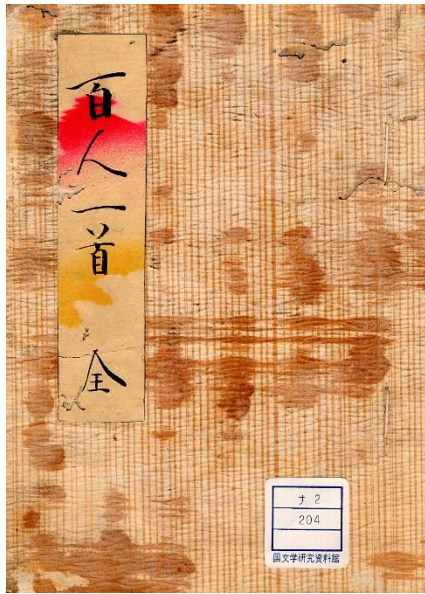
⑨ 墨流し



天明4年刊『竹取物語抄』サ4-7
<https://www.doi.org/10.20730/200001896>



『源氏物語』サ4-33
<https://www.doi.org/10.20730/200005712>



江戸後期『百人一首』
ナ2-204

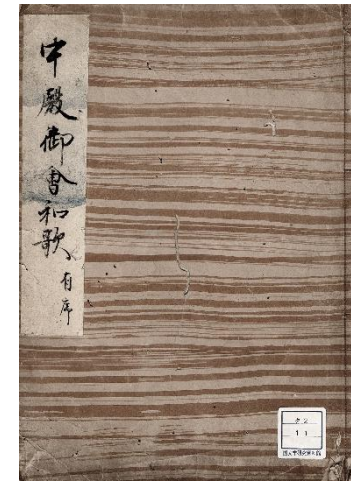
例..横刷毛目(渋引)



近代写『うつほ物語俊蔭卷』
12-446(初雁文庫)

<https://doi.org/10.20730/200003341>

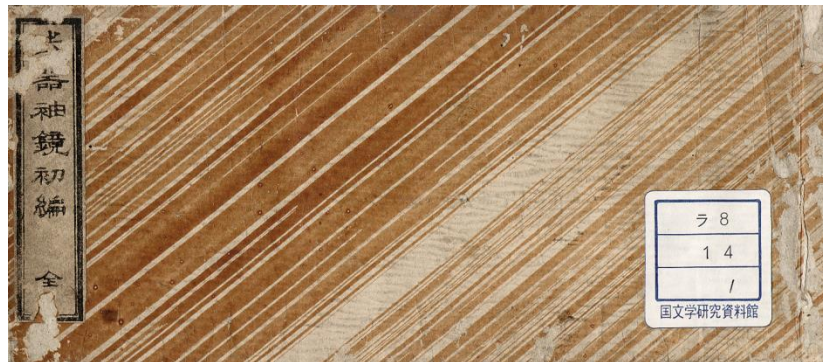
例..格子刷毛目



江戸後期写『中殿御会和歌』タ2-11
ちゅうでんぎよかいわか

<https://doi.org/10.20730/200001948>

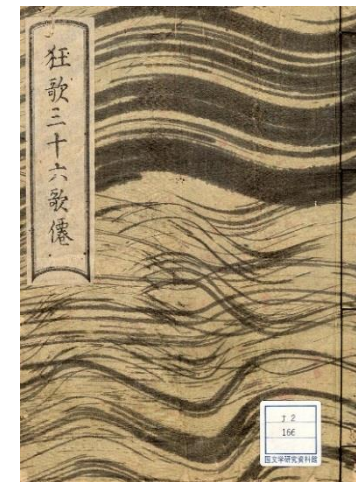
例..横刷毛目
①刷毛目(はけめ)



天保14年刊『武器袖鏡』ラ8-14

<https://doi.org/10.20730/200000845>

例..斜刷毛目



文政5年刊『狂歌三十六歌遷』ナ2-166

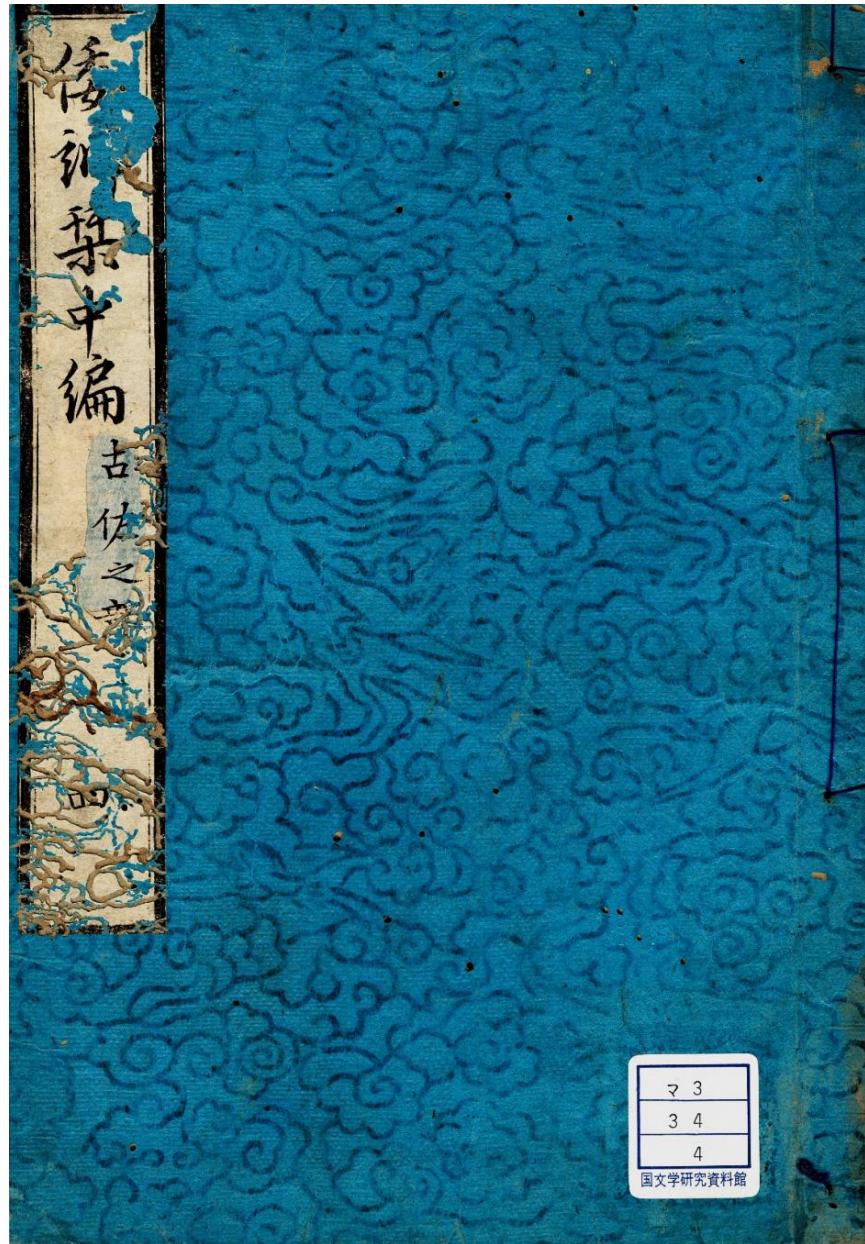
<https://doi.org/10.20730/200002692>

例..波刷毛目

自然・動植物文様

① 雲文

例..雲中に鶴

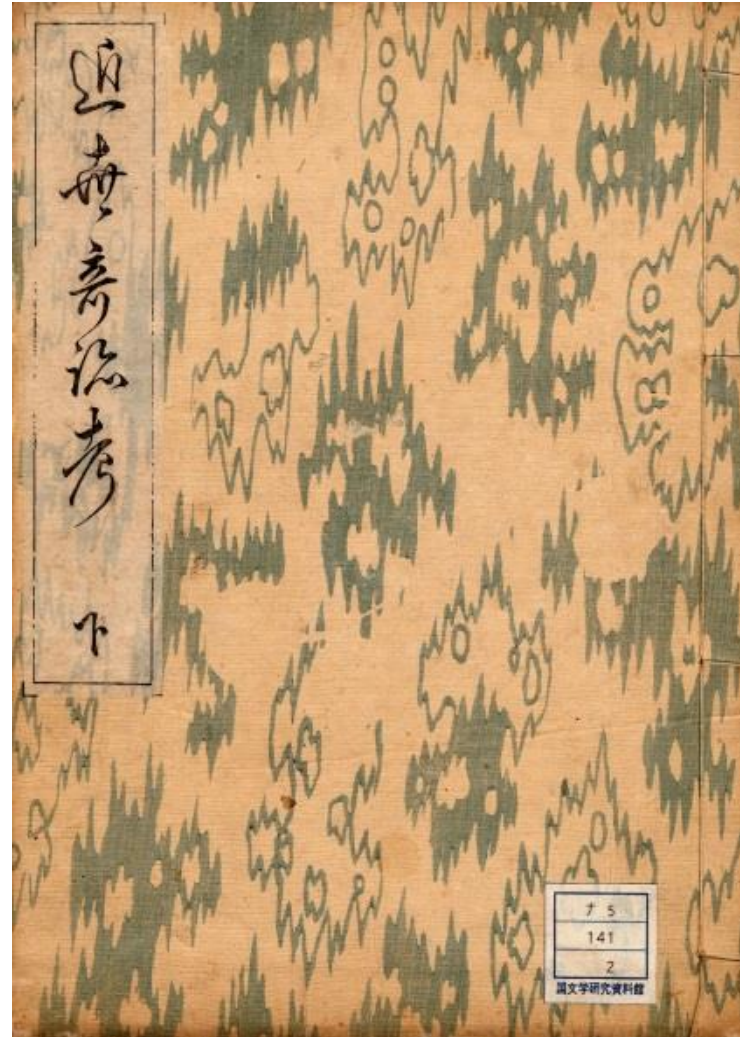


明治15年刊『倭訓栞』マ3-34
わくんのしおり

例・朽木（くちき）雲



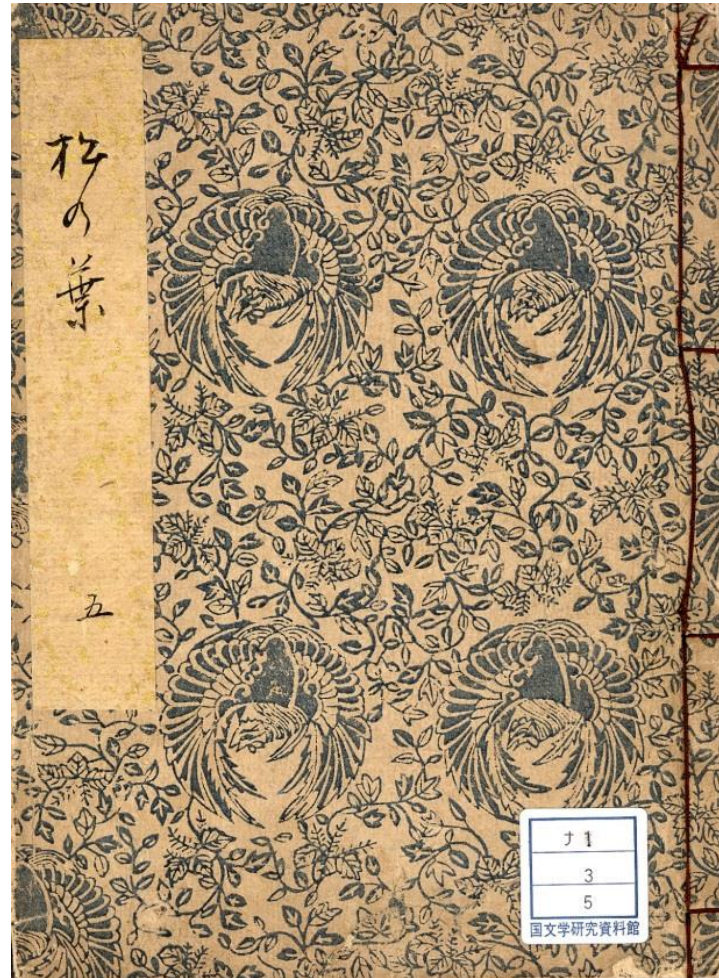
天保14年刊『古今和歌六帖標注』
ナ2-1



幕末明治期刊『近世奇跡考』
ナ5-141

②唐草

例..桐唐草と鳳凰の丸 ※古来、鳳凰は桐に棲むとされる



元禄16年刊『松の葉』ナ1-3
<https://doi.org/10.20730/200002600>

例..蓮華唐草に梅鉢散し

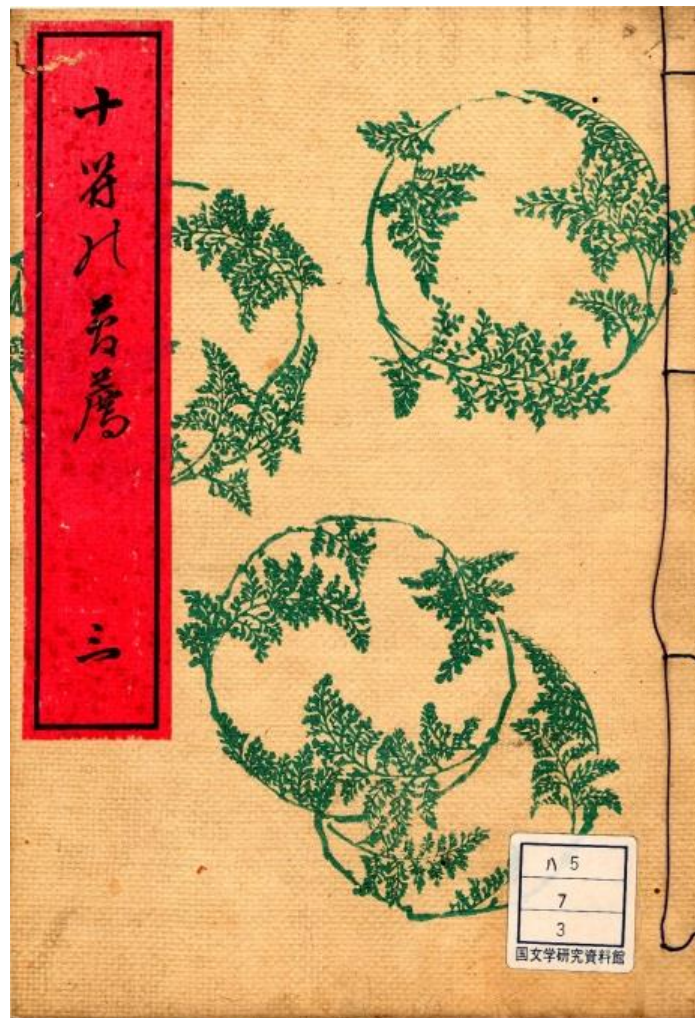


『徒然草』万治2刊 89-36(高乗)
<https://doi.org/10.20730/200015971>



例..布目地に信夫と蝶

『茅窓漫録』天保4刊 当館蔵ナ5-12
<https://doi.org/10.20730/200002247>



③ 信夫（しのぶ）
 例..布目地に信夫の丸散らし

明治9年刊『十符の菅薦』ハ5-7
 じっぷのすがこも

④ 葵 (あおい)

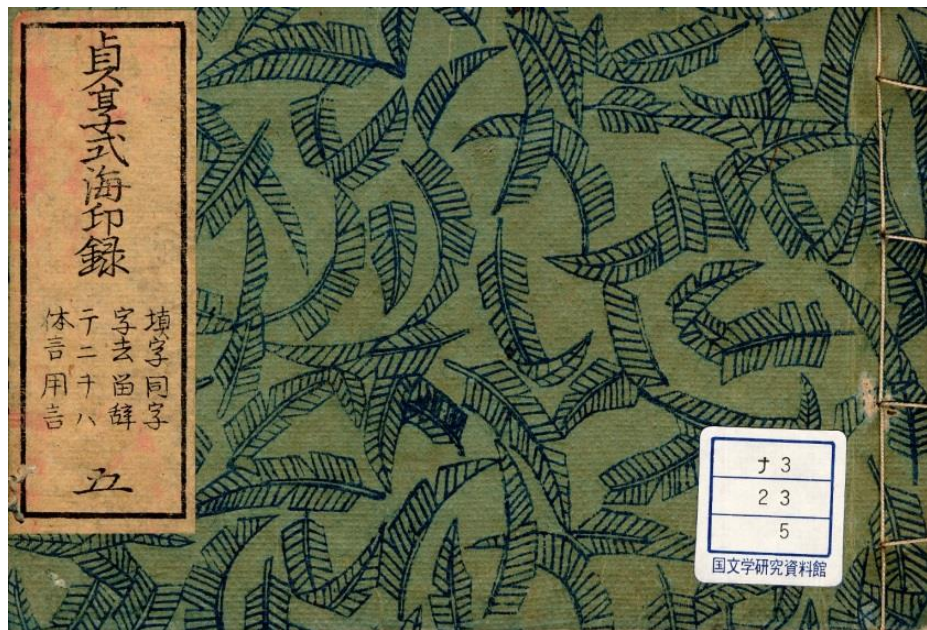
例…小葵 (こあおい)



元禄6年刊『伊勢物語絵抄』
12-416

⑤ 芭蕉

例.. 芭蕉葉散らし



安政6年序・刊『貞享式海印録』ナ3-23
じょうきょうしきかいんろく

⑥ 梅

例.. 氷割れに梅花



『武家百人一首』
ナ2-212

明治十七年刊 『古文真宝俚諺抄』 (個人蔵)

・ 卍繋ぎ

・ 強い光沢・西洋の革表紙を真似たものか。

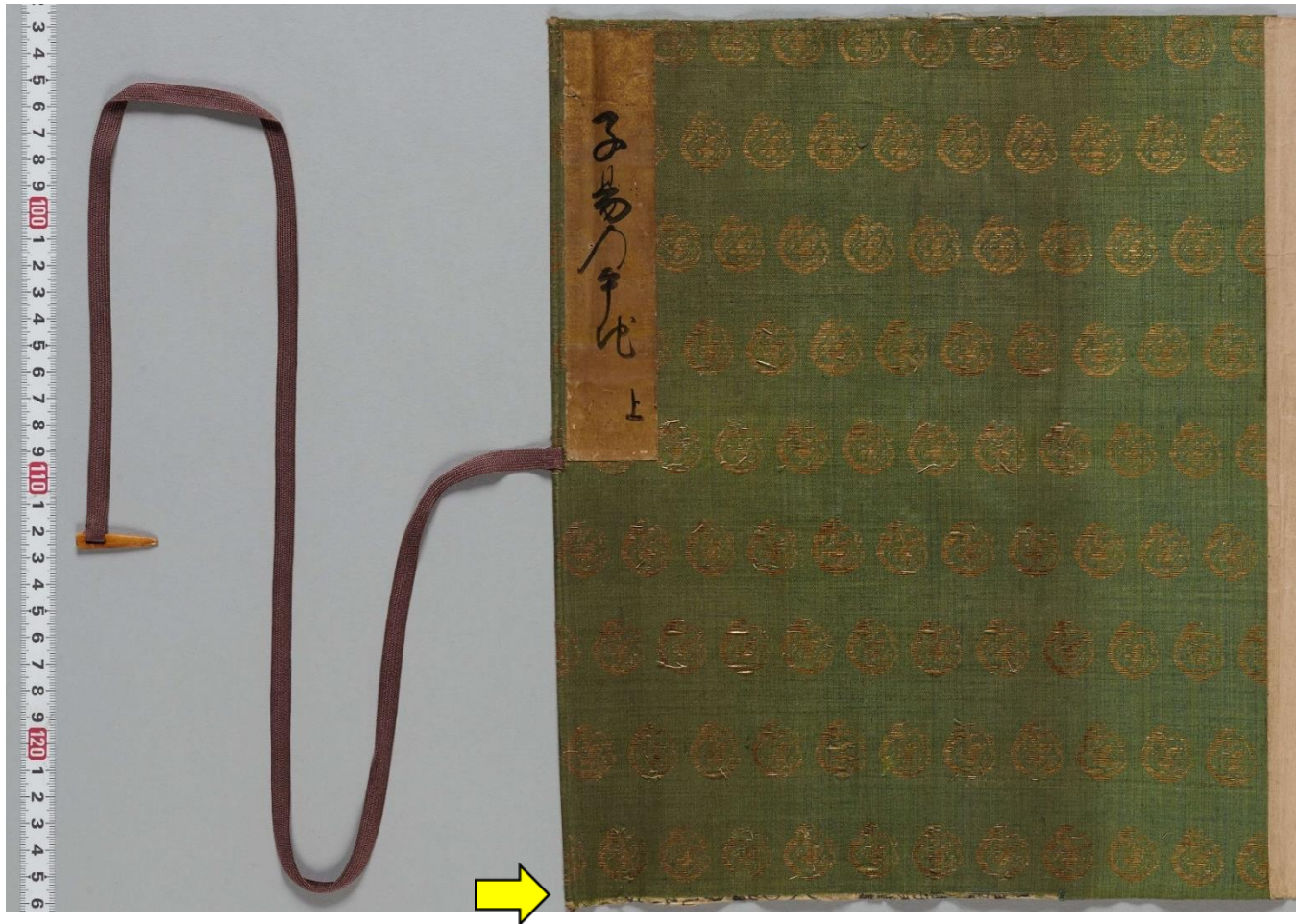
◎時代性と文芸が織り出す表紙の世界

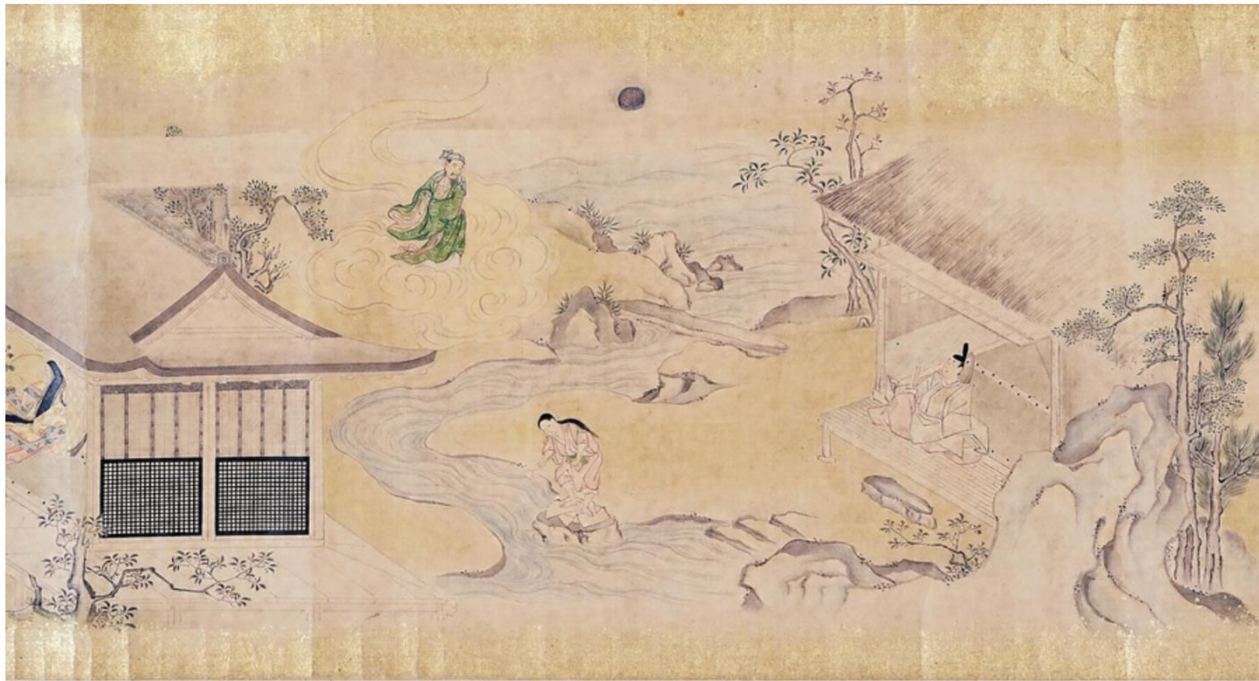


IV 表紙のウラの顔

『子易の本地』 奈良絵本。江戸時代前期 2軸／書誌ID:200032458

<https://www.doi.org/10.20730/200032458>





海に見える杜美術館蔵『なぐさみ草絵巻』
(『徒然草』の絵巻。図版引用は文化遺産オンライン)

- ◎非破壊で表紙裏反故のデータを集められれば、新たな知見が得られるのではないか。
- ◎表紙のオモテの顔・ウラの顔には、日本の書物文化の貴重な情報が含まれている。

◎端正に整えられた画像からは得られない知見が「原本」にはある。

原本を「見る」ことの重要性

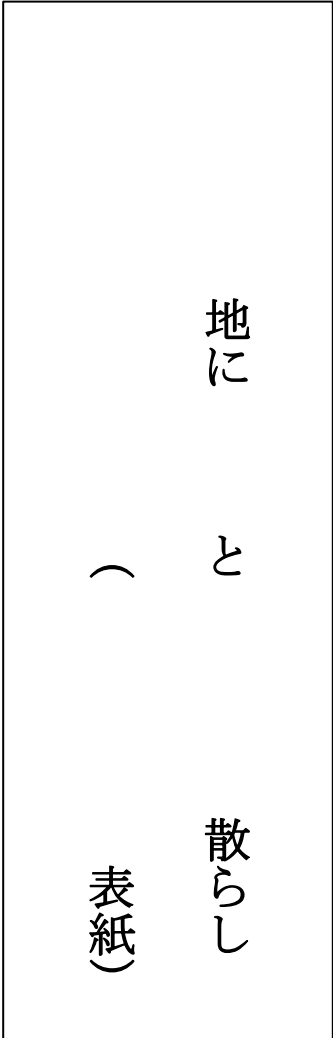
V 文様レッスン①



『仙洞御添削百首』ナ2-261

繋ぎ文

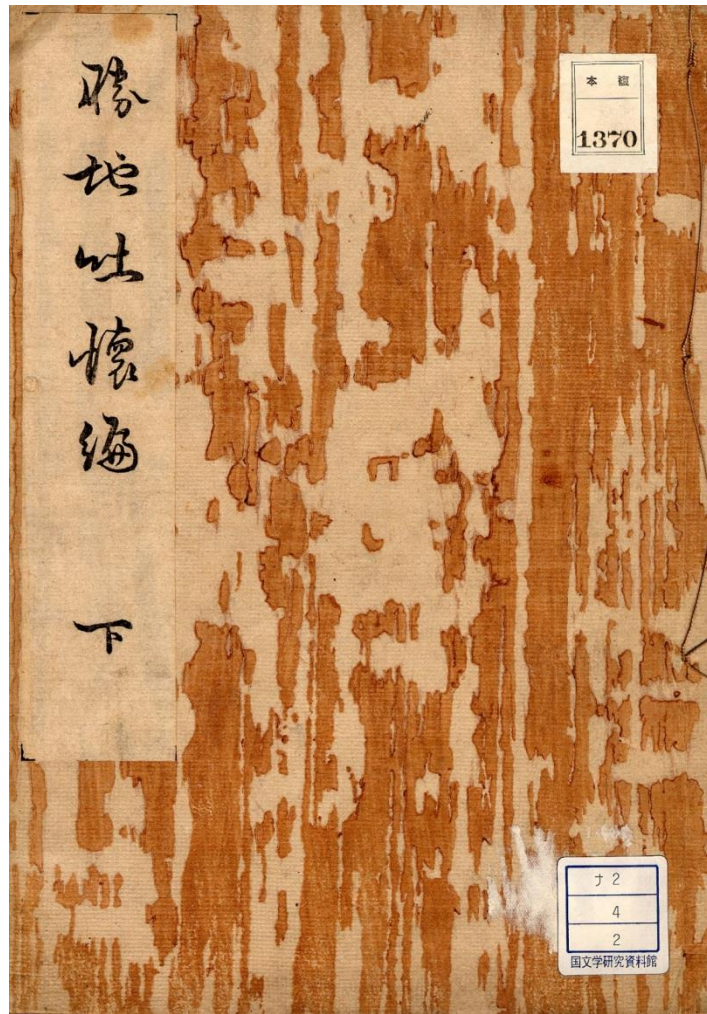
V 文様レッスン②



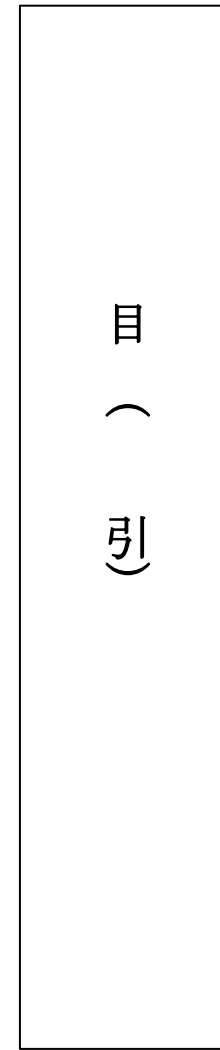
江戸後期刊『周防内侍』ナ4-17

寄：毘沙門亀甲地に小桜と若松の丸散らし

V 文様レッスン③

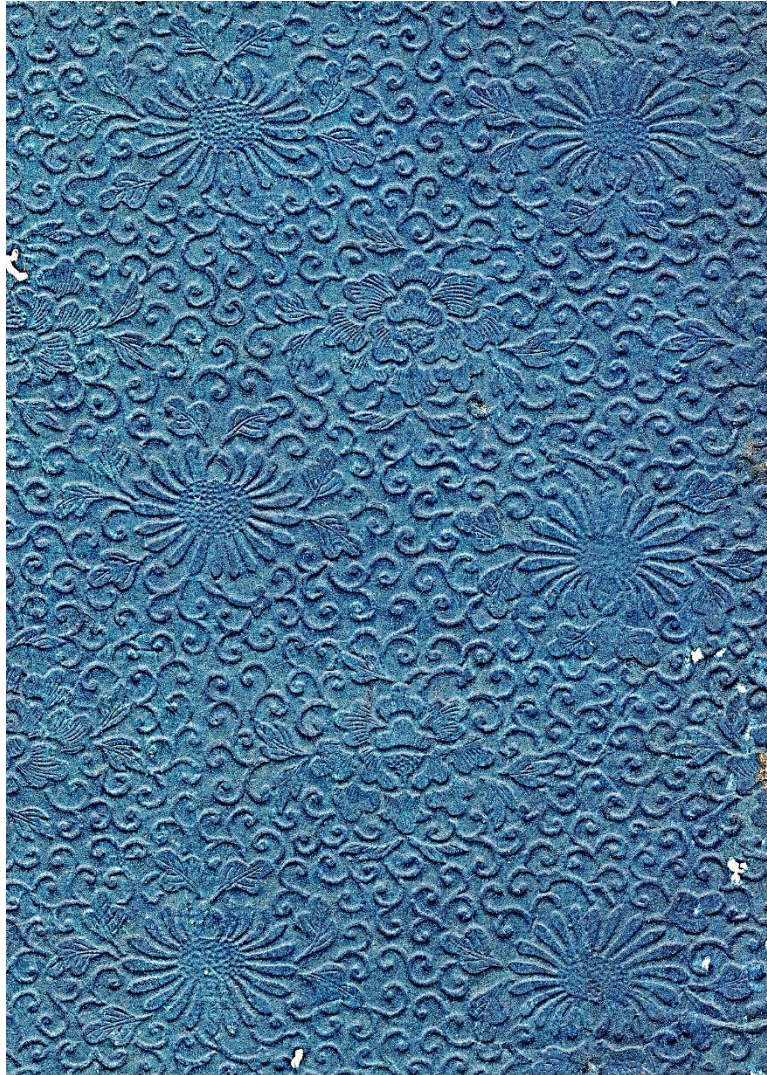


寛政4年刊『勝地吐懐編』ナ2-4



(15系) 目録欄平:最

V 文様レッスン④



『国本論』

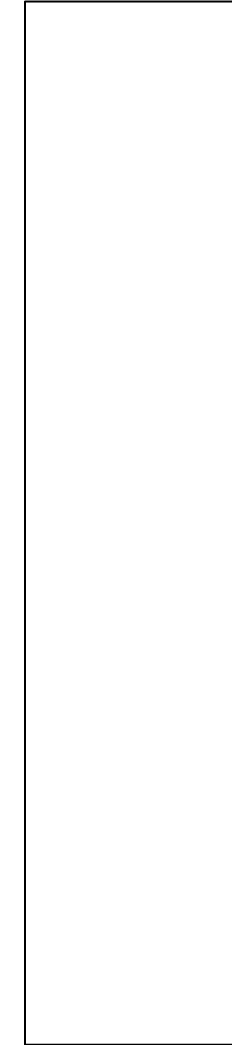
唐草

唐草牡丹唐草

V 文様レッスン⑤



安永7年刊『奥細道菅薦抄』ナ3-119



啓：信夫散

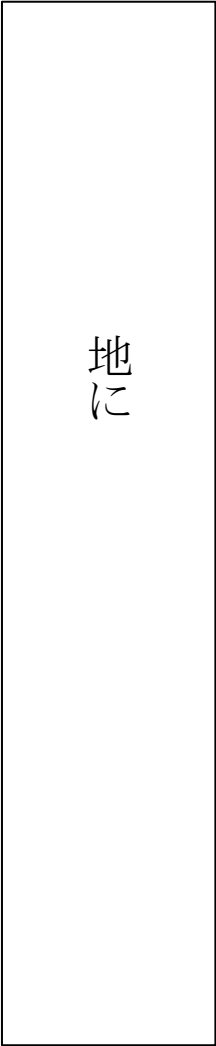
V 文様レッスン⑥



(部分拡大)



『松屋叢考』ヤ9-122



表紙の地文様

主な参考文献

『日本古典籍書誌学大辞典』岩波書店、1999年

【文様】

- ・国文研文献資料部『調査研究報告』25号別冊『表紙文様集成』（中野真麻理・小川剛生編、2004年）
- ・沼田頼輔『日本紋章学』人物往来社、1968年
- ・並木誠士『すぐわかる日本の伝統文様—名品で楽しむ文様の文化』東京美術、2006年
- ・海野弘『日本の装飾と文様』パイインターナショナル、2018年
- ・『有職文様図鑑』コロナブックス、2020年
- ・石崎忠司ほか『和の文様辞典 きもの模様の歴史』講談社学術文庫、2021年
- ・池修『佛教の文様』2017年

【表紙ウラ】

- ・渡辺守邦『古活字版伝説』日本書誌学大系54、青裳堂書店、1987年
- ・ // 『表紙裏の書誌学』笠間書院、2013年
- ・今西祐一郎「表紙裏の散歩」『雅俗』17、2018年
- ・新美哲彦「近世前期の写本制作—伝三条西実枝筆『源氏物語』表紙裏反故から」『国語国文』72-7、2003年7月
（『源氏物語の受容と生成』武蔵野書院、2008年）
- ・齋藤真麻理「奈良絵本と『徒然草』—ジャンルを往還するメディア」『東アジアにおける知の往還』勉誠出版、2021年

【色】

- ・長沢盛輝『日本の伝統色 その色名と色調』青幻舎、2006年
- ・『日本の伝統色』大日本インキ化学
- ・江南和幸ほか「江戸末～明治期の浮世絵、版本の彩色に用いられた石黄について」
（「文化財科学会」大会、2004年／http://www.jssscp.org/files/abstract/21_poster.pdf）

ご静聴ありがとうございました

